

教育相談の窓から



通年で実施している教育相談には、今年も様々な相談が寄せられています。

今年は子育ての悩みの他に、不登校の相談も増えています。どの相談でも同じなのは、保護者の方が「何がいけなかったのか」「自分の育て方が間違っていたのではないか」という悩みで、動きが取れなくなっていることです。

相談では「困り感」を聞くことが主になりますが、聞いているうちに、涙をこぼされる方も多くいます。

胸の中にたまっていた苦しい気持ちや切ない思いがあふれてくるのでしょう。

人間には「自然治癒力」が備わっていて、それは体の傷も心の傷も同じです。体の傷は血が流れたり、痛みを感じたり、熱を持ったりして、徐々に良くなっていますが、心の傷は涙を流したり、震えたり、汗をかいたり、笑ったりすることで癒えていくのです。話しながらそうして感情を開放していくと、相談者の顔が来た時とは別人のように明るくなるのがよくあります。

先日来、何回か相談に来られているお母さんは、どんどん元気になって、この頃はここで冗談を言いながら大笑いして帰ることがよくあるのですが、「何とかなる」という気持ちになれて、趣味事も始められ、毎日が少し楽しくなってきたと言います。子どもは相変わらず学校に行けてないけれど、笑顔が増えて、親とよく話すようになり、学校であったつらいことをぽつぽつ話してくれるようにもなってきたと言います。

子どもは親の気持ちを映す鏡です。どの子も親にはいつも穏やかに笑っていてほしい、HAPPYでいてほしいと願っています。自分のことで親が悩み、苦しい、悲しい表情をしていると、そうさせている自分を責めて、ますます悪い状況に陥っていく「負のスパイラル」に入ってしまう。

「お子さんを心配する気持ちは当然だけれど、お子さんには親の心配をせずに、自分自身の困りごとだけを考えられるようにしてあげましょう。保護者の方がどんと構えて、幸せな生活を送っていれば、子どもは安心して悩めるし、自分で解決する力をわかせていくものですよ」と、明るい表情に変わった相談者を送り出しています。